

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合研究報告書
（令和元年度～令和2年度）

「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」

研究代表者 慶應義塾大学・医学部産婦人科学・教授 ・ 青木大輔

研究要旨

わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法については「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（指針）」に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。一方、主に海外のエビデンスから、細胞診に比してより検査感度の高いHPV検査を用いた子宮頸がん検診の有効性が示されており、欧州、オセアニアを中心に国の対策型検診にHPV検査を導入する動きがある。わが国では国立がん研究センターより2020年7月に「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年度版」が刊行され、検診方法として現行の細胞診単独法（推奨グレード：A）と並べてHPV検査単独法（同：A）、細胞診・HPV検査併用法（同：C）が示された。しかし実際にHPV検査をわが国の子宮頸がん検診に導入して効果を上げるためには、検診プログラムの手順と運用方法（アルゴリズム）の検討と、受診者がそのアルゴリズムを遵守できるような工夫と厳密な検診の精度管理が必要である。前述のガイドラインにおいても、研究への提言として今後わが国で新たな子宮頸がん検診の導入を図る際には、わが国の日常のプラクティスレベルで実行可能かどうかの検討（実装・普及研究）が必要であることが指摘されている。

HPV検査を用いた検診の中でも特に細胞診・HPV検査併用法は、2種類になった検査結果の組み合わせが複雑になるため、その後のマネジメントに負荷がかかることが懸念される。HPV検査を検診に導入した場合の、検診結果別に、その後どういった精密検査等を行うかを示すアルゴリズムは、未だ確立されていない現状であり、がん検診の効果を上げるためには、アルゴリズムを定め、それを遵守できるための工夫と的確な精度管理を行うことが重要である。

そこで本研究では、子宮頸がん検診のアルゴリズムを文献・公表物等から調査し、それぞれのパターン別の精度管理体制を調査することを目的とした。HPV検査を取り入れたものも含めて子宮頸がん検診にどのようなアルゴリズムが採用され、その実施状況がどのようなものであったかを把握するために、以下の4つのカテゴリー（(1)「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」の評価対象となった検診としての有効性が示されたランダム化比較試験で採用されたアルゴリズム、(2)国の対策型検診として導入されている検診のアルゴリズム、(3)ガイドライン等に掲載されているアルゴリズム、(4)検診の評価研究で用いられているアルゴリズム）のそれぞれのアルゴリズムについて検討を行った。具体的にはアルゴリズムの構造、検診手法と検診結果、精密検査の種類、検査の対象者の割合などについて調査した。さらに検診データの収集と管理体制に関する検討として、検診機関用のチェックリスト（例）および地域保健・健康増進報告における報告様式（例）も作成した。

研究分担者氏名	所属研究機関名及び所属研究機関における職名
八重樫 伸生	・国立大学法人 東北大学・大学院医学系研究科 婦人科学分野・教授
藤井 多久磨	・藤田医科大学・医学部産婦人科学・教授
宮城 悦子	・横浜市立大学・大学院医学研究科 生殖生育病態医学・教授
中山 富雄	・国立がん研究センター・社会と健康研究センター検診研究部・部長
齊藤 英子	・国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター・講師
森定 徹	・慶應義塾大学・医学部産婦人科学・専任講師
高橋 宏和	・国立がん研究センター・社会と健康研究センター検診研究部 検診実施管理研究室・室長
戸澤 晃子	・聖マリアンナ医科大学・医学部産婦人科・病院教授
雑賀 公美子	・JA長野厚生連 佐久総合病院・佐久医療センター 総合医療情報センター・医療情報分析室長

A. 研究目的

わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法については「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（指針）」に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。近年、細胞診に比較してより感度の高いHPV検査を用いた検診を対策型検診として導入した国も存在する。しかしながら、がん検診を取り巻く環境や検診の精度管理状況は国によって異なるため、精度管理体制が十分とは言えないわが国でHPV検査を用いた検診が検診としての効果が上げられる保障はない。

国立がん研究センターより2020年7月に「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年度版」が刊行され、検診方法として現行の細胞診単独法（推奨グレード：A）と並べてHPV検査単独法（同：A）、細胞診・HPV検査併用法（同：C）が示された。しかし検診の利益を担保するためにはアルゴリズム（検診結果毎にどのような検査をいつ行うかなどを定める）の構築と適切な精度管理が必須であるとも記載されている。さらにこのガイドラインでは、「研究への提言」として、今後わが国で新たな子宮頸がん検診の導入を図る際には、わが国の日常プラクティスレベルで実行可能かどうかの検討（実装・普及研究）が必要であることが指摘されている。特に、細胞診・HPV検査併用法では、検診結果が細胞診の判定結果を大きく分けた3つのパターン（NILM、ASC-US、ASC-US<）とHPV検査の結果の2パターン（陽性、陰性）の計6通りと組み合わせとなり、その組み合わせの結果ごとに精密検査の検査内容も施行時期も異なるため、その後のマネジメントに負荷がかかることが懸念される。しかし、検診結果別のその後どういった精密検査等を行うかを示すアルゴリズムは明示されておらず、ガイドラインの中でも至適なアルゴリズムは確立されていないと記載されている。現行の細胞診単独による検診においてですら精度管理が不十分であり、かつ全国的に画一されたアルゴリズムの確定ができてはいない中、HPV検査をわが国の子宮頸がん検診に導入して効果を上げるためには受診者に対して検診結果別に次に受ける検診や精密検査の内容を決め、どのような結果になったら次の検診に戻れば良いのかなどのアルゴリズムを検討すること、そしてそのアルゴリズムが遵守できるような工夫と厳密な精度管理体制が必要である。わが国の地域住民検診の内容の決定には、科学的根拠に基づくがん検診ガイドラインでの推奨に加え、厚生労働省で組織されるがんの検診あり方検討会において対象年齢や検診間隔、アルゴリズムなどの実際の運用方法を決定するという過程を経る必要がある。本研究は、厚生労働省での実際の運用を決める際の参考となる学術的見解を示すことを目的とする。

B. 研究方法

本研究で、検討すべき検診のアルゴリズムを満遍なく網羅するためには、何を調査することが最も効果的かを議論し、調査対象を決定した。またアルゴリズムを調査するための様式の作成と、精度管理体制の確認のために必要と考えられる調査項目を特定した。

具体的には

(1)「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドラ

イン」の評価対象となった検診としての有効性が示されたランダム化比較試験で採用されたアルゴリズム

(2) 国の対策型検診として導入されている検診のアルゴリズム

(3) 上記以外のガイドライン等に掲載されているアルゴリズム

(4) 国内外の検診の評価研究で用いられているアルゴリズム

のそれぞれについてアルゴリズムの構造、検診手法と検診結果、精密検査の種類、検査の対象者の割合などについて文献・公表物を収集し、調査する。また、それぞれのアルゴリズムにおける検診陽性者の追跡管理体制、検診の精度管理の実態についても情報収集した。

調査の中では、精密検査の結果異常がなかった場合の検診対象に戻す条件、精検未受診者への対応等を調査した。

（倫理面への配慮）

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わない。人体から採取された資料は用いないため、倫理上、特に問題は発生しない。

C. 研究結果

(1)アルゴリズム検討の調査対象となった「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」に用いられた検診としての有効性が示されたランダム化比較試験について以下に示す。

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年度版ドラフト」および「2009年子宮頸がん検診ガイドライン」で評価対象として採用された研究（14文献）

- Berget A. Screening for Cervical Neoplasia. A Survey of the Assumptions From Studies on the Screening in Maribo. Dan Med Bull. 1979; 26(7):313-332.
- Aklimunnessa K et al. Effectiveness of cervical cancer screening over cervical cancer mortality among Japanese women. Jpn J Clin Oncol 2006;36:511-518
- Ronco G and et al. Impact of the introduction of organized screening for cervical cancer in Turin, Italy: cancer incidence by screening history 1992-98. Br J Cancer 2005;93:376-378
- Kitchenner HC et al. HPV testing in combination with liquid-based cytology in primary cervical screening (ARTISTIC): a randomized controlled trial. Lancet Oncol. 2009;10:672-682
- Naucler P et al. Human papillomavirus and papanicolaou tests to screen for cervical cancer. N Engl J Med 2007;357:1589-97
- Rijkaart DC et al. Human papillomavirus testing for the detection of high-grade cervical intraepithelial neoplasia and cancer: final results of the POBASCAM

- randomized controlled trial. Lancet Oncol 2012;13:78-88
- Bulkman N W et al. Human papillomavirus DNA testing for the detection of cervical intraepithelial neoplasia grade 3 and cancer: 5-year follow-up of a randomized controlled implementation trial. Lancet 2007;370:1764-1772
 - Ronco G et al. Efficacy of HPV-based screening for prevention of invasive cervical cancer: follow-up of four European randomized controlled trials. Lancet 2014; 383:524-532
 - Ronco G et al. Efficacy of human papillomavirus testing for the detection of invasive cervical cancers and cervical intraepithelial neoplasia: a randomized controlled trial. Lancet Oncol. 2010;11: 249-257
 - Leinonen MK et al. Detection rates of precancerous and cancerous cervical lesions within one screening round of primary human papillomavirus DNA testing: prospective randomized trial in Finland. BMJ. 2012;345: e7789
 - Sankaranarayanan R et al. HPV screening for cervical cancer in Rural India. N Engl J Med 2009;360:1385-1394
 - Coldman AJ et al. Disease detection and resource use in the safety and control arms of the HPV FOCAL cervical cancer screening trial. Br J Cancer 2016;115:1478-1494
 - Ogilvie GS et al. Effect of screening with primary cervical HPV testing vs cytology testing on high-grade cervical intraepithelial neoplasia at 48 months. JAMA. 2018;320:43-52
 - Smelov V et al. Long-term HPV type-specific risks of high-grade cervical intraepithelial lesions: a 14-year follow-up of a randomized primary HPV screening trial. Int J Cancer 2015;136:1171-1180

(2) 今回の調査対象とした国の対策型検診として導入されている検診のアルゴリズムは以下のとおりである。(5カ国)

- 日本
- オーストラリア
- オランダ
- ニュージーランド
- 韓国

(3) 今回の調査対象とした各学術団体のガイドライン等に掲載されているアルゴリズムは以下のとおりである。

- ASCCP
- NCCN
- 香港
- 日本産婦人科医会

(4) 今回の調査対象とした国内外の検診の評価研究で用いられているアルゴリズムは以下のとおりである。

- AMEDによるコホート研究
- CITRUS研究
- 栃木県小山市における報告

このアルゴリズムの調査に際して、関連文献をレビューするために、レビュー担当が必要な項目を抽出できるようにレビュー用のフォーマットを作成し、それを用いて情報を集積し検討した。

具体的には、まず各アルゴリズムの構成要素（対象者の特徴、検診検査の判定方法、確定診断法など）について調査を行った。さらにアルゴリズムの構造の調査においては、まずアルゴリズムに用いられる用語の定義、形式を統一してフローチャートでその構造を図示した。検診陽性者に行われる精密検査を3つ（トリアージ精検、確定精検、追跡精検）に分類してアルゴリズムの構造を整理し、それらの比較からアルゴリズムをいくつかのパターンに分類した。その上で、わが国で実現可能性のあるアルゴリズムと検診の精度管理手法を検討した。（別冊：関連資料「研究報告書」）

検診データの収集と管理体制に関する検討として、検診の技術・体制的指標に関してHPV検査を導入した場合の検診機関用のチェックリスト（例）を作成した。さらにプロセス指標項目の策定とそれに連動するHPV検査を導入した場合の地域保健・健康増進報告における報告様式（例）も作成した。

D. 考察

がん検診を実施する上で、検診の効果を上げるためには、受診者に対して検診結果別に次に受ける検診や精密検査の内容を決め、どのような結果になったら次回の検診に戻れば良いのかなどのアルゴリズムを定め、受診者が遵守できるような工夫と厳密な精度管理体制を構築することは必須である。しかし、わが国においては現在推奨されている細胞診単独法による検診においてですら、全国的に画一されたアルゴリズムの確定ができていない。

科学的根拠に基づいて効果があると評価された研究においても、研究によってアルゴリズムが異なることが知られていたが、今回それらのアルゴリズムについて初めて詳細な調査を実施することができた。今回入手できたアルゴリズムはいずれも、トリアージ精検、追跡精検、確定精検、などの共通の用語を使ってフローチャートで記載し、比較することが可能であった。それを元にアルゴリズムの基本的な構造パターンを整理すると、細胞診単独法で3種類、HPV検査単独法で3種類、HPV検査＋細胞診併用法で2種類に整理することができた。

E. 結論

各有効性評価研究や国の対策型検診、ガイドラインなどに用いられている子宮頸がん検診（細胞診単独法、HPV検査単独法、HPV検査＋細胞診併用法）のアルゴリズムを調査した。今後、HPV検査がわが国の子宮頸がん検診に導入されることを想定した場合、アルゴリズム決定の際には検診の精度管理状況についてのデータ収集・管理ができる仕組みの構築と実現可能性の検討が必須である。

F. 研究発表

・研究代表者 青木 大輔

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miya gi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Sait o H, Aoki D: The first-round results of a pop ulation-based cohort stud y of HPV testing i n Japanese cervical c ancer screening: baseli ne characteristics, screening results, and refer ral rate. J Gynecol Oncol ,32(3):e29, 2021.

Shigeta S, Shida M, Nagase S, Ikeda M, Tak ahashi F, Shibata T, Yamagami W, Katabuch i H, Yaegashi N, Aoki D, Mikami M: Epidemi ological Guideline Influence on the Therapeuti c Trend and Patient Outcome of Uterine Cerv ical Cancer in Japan: Japan Society of Gynec ologic Oncology Guideline Evaluation Committ ee Project. Gynecol Oncol,159(1) :248-255, 20 20.

Tanaka K, Aoki D, Tozawa-Ono A, Suzuki N, Takamatsu K, Nakamura M, Tsunoda H, Sein o S, Kobayashi N, Shirayama T, Takahashi F: Comparison of ThinPrep Integrated Imager -Assisted Screening versus Manual Screening of Thi nPrep Liquid-Based Cytology Specime ns. Act a Cytol, 64(5):486-491,2020.

Komatsu H, Banno K, Yanaihara N, Kimura T, Board Members of Japan Society of Obstet rics and Gynecology: Aoki D, Kato K, Ikeda T, Osuga Y, Okamoto A, Mandai M, Yaegashi N, Mikami M, Kudo Y, Sekizawa A, Enomoto T, Kamei Y, Kobayashi Y, Koyama M, Same shima H, Shibahara H, Shozu M, Sugino N, Takeshita T, Nagase S, Fujii T, Maeda N, Mi yamoto S, Watari H: Prevention and practice during the COVID-19 emergency declaration p eriod in Japanese obstetrical-gynecological faci lities. J Obstet Gynaecol Res, 46(11):2237-224 1, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子, 青木大輔: 子宮 頸がん検診 対策型検診へのHPV検査の導入の考 え方 -世界と日本の現状-. 産婦人科の実際, 69(3) : 219-224, 2020.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区 町村事業として実施されている子宮頸がん検診に ヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した 自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検 診・診断学会誌, 27(2):151 -158, 2020.

Nakamura M, Ueda M, Iwata T, Kiguchi K, Mikami Y, Kakuma T, Aoki D : A Clinical Trial to Verify the Efficiency of the LC-1000 Exfoliative Cell Analyzer as a New Method of Cervical Cancer Screening. Acta Cytologica, 63(5): 1-10, 2019.

青木大輔: 子宮頸部病変の検出、診断における細 胞診と HPV 検査の役割. SRL 宝函,40 (2): 41 - 44, 2019.

青木大輔, 森定 徹: 【特集】 今日の子宮頸がん 検診の精度管理とその課題 がん検診における 精度管理の考え方ーアセスメントとマネジメン トの関係性を踏まえてー. 日本産科婦人科学会雜 誌, 71 (3) : 449-458, 2019.

青木大輔: 子宮頸がん検診の現状と課題. 東京都 医師会雑誌, 72(3):195-198, 2019.

Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D : Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol, 24(1): 1-19, 2019.

・研究分担者 八重樫 伸生

Shimada M, Tokunaga H, Kigawa J, Yaegashi N: Impact of histopathological risk factors on the treatment of stage IB-IIB uterine cervical cancer. Tohoku J Exp Med, 252(4): 339-351, 2020.

Takekuma M, Takahashi F, Mabuchi S, Kudaka W, Horie K, Ikeda M, Shikama A, Mitsuhashi A, Nagao S, Suzuki S, Mizuno M, Nishio S, Tokunaga H, Ota Y, Kasamatsu T, Kitagawa R, Toita T, Kobayashi H, Ishikawa M, Yaegashi N : Propensity score-matched analysis of systemic chemotherapy versus salvage hysterectomy for persistent cervical cancer after definitive radiotherapy/concurrent chemoradiotherapy. BMC Cancer, 20(1) :1169, 2020.

Shigeta S, Shida M, Nagase S, Ikeda M, Takahashi F, Shibata T, Yamagami W, Katabuchi H, Yaegashi N, Aoki D, Mikami M : Epidemiological Guideline Influence on the Therapeutic Trend and Patient Outcome of Uterine Cervical Cancer in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology Guideline

Evaluation Committee Project. *Gynecol Oncol*,159(1) :248-255, 2020.

Komatsu H, Banno K, Yanaihara N, Kimura T, Board Members of Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Aoki D, Kato K, Ikeda T, Osuga Y, Okamoto A, Mandai M, Yaegashi N, Mikami M, Kudo Y, Sekizawa A, Enomoto T, Kamei Y, Kobayashi Y, Koyama M, Sameshima H, Shibahara H, Shozu M, Sugino N, Takeshita T, Nagase S, Fujii T, Maeda N, Miyamoto S, Watari H : Prevention and practice during the COVID-19 emergency declaration period in Japanese obstetrical-gynecological facilities. *J Obstet Gynaecol Res*, 46(11):2237-2241, 2020.

Onuki M, Matsumoto K, Iwata T, Yamamoto K, Aoki Y, Maenohara S, Tsuda N, Kamiura S, Takahara K, Horie K, Tasaka N, Yahata H, Takei Y, Aoki Y, Kato H, Motohara T, Nakamura K, Ishikawa M, Kato T, Yoshida H, Matsumura N, Nakai H, Shigeta S, Takahashi F, Noda K, Yaegashi N, Yoshikawa H : Human Papillomavirus Genotype Contribution to Cervical Cancer and Precancer: Implications for Screening and Vaccination in Japan. *Cancer Sci*, 111(7) : 2546-2557, 2020.

徳永 英樹、岡本 聡、島田 宗昭、石橋 ますみ、志賀 尚美、高野 忠夫、伊藤 潔、八重樫 伸生 : 頸部腺系病変の早期発見 子宮頸部腺系病変の早期発見に向けた取り組みと将来展望. *日本臨床細胞学会雑誌*, 59(補) : 165, 2020.

Kukimoto I, Matsumoto K, Takahashi F, Iwata T, Tanaka K, Yamaguchi-Naka M, Yamamoto K, Yahata H, Nakabayashi M, Kato H, Tsuda N, Onuki M, Yaegashi N MINT Study II Group : Human Papillomavirus (HPV) Genotyping Assay Suitable for Monitoring the Impact of the 9-Valent HPV Vaccine. *Tohoku J Exp Med*, 251(4) : 287-294,2020.

Miki Y, Tase T, Tokunaga H, Yaegashi N, Ito K : Cervical cancer screening rates before and after the Great East Japan Earthquake in the Miyagi Prefecture, Japan. *PloS One*,15(3) : e0229924, 2020.

伊藤 潔、三木康宏、小澤信義、八重樫伸生 : 日本の子宮頸がん検診の現状と課題. *産婦人科の実際*, 69(3) :213-217, 2020.

Ito K, Kimura R, Konishi H, Ozawa N, Yaegashi N, Ohashi Y, Suzuki M, Kakizoe T : A comparison of liquid-based and

conventional cytology using data for cervical cancer screening from the Japan Cancer Society. *Jpn J Clin Oncol*, 50(2) :138-144, 2020.

Machida H, Iwata T, Okugawa K, Matsuo K, Saito T, Tanaka K, Morishige K, Kobayashi H, Yoshino K, Tokunaga H, Ikeda T, Shozu M, Yaegashi N : Fertility-sparing trachelectomy for early-stage cervical cancer: A proposal of an ideal candidate. *Gynecol Oncol*,156(2) :341-348, 2020.

Shimada M, Tokunaga H, Kobayashi H, Ishikawa M, Yaegashi N : Perioperative treatments for stage IB-IIB uterine cervical cancer. *Jpn J Clin Oncol*,50(2) :99-103, 2020.

Matsumoto K, Yaegashi N, Iwata T, Yamamoto K, Aoki Y, Okadome M, Ushijima K, Kamiura S, Takehara K, Horie K, Tasaka N, Sonoda K, Takei Y, Aoki Y, Konnai K, Katabuchi H, Nakamura K, Ishikawa M, Watari H, Yoshida H, Matsumura N, Nakai H, Shigeta S, Takahashi F, Noda K, Yoshikawa H; MINT Study Group : Reduction in HPV16/18 prevalence among young women with high-grade cervical lesions following the Japanese HPV vaccination program. *Cancer Science*, 110(12):3811-3820,2019.

Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D : Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. *Int J Clin Oncol*, 24(1): 1-19, 2019.

・研究分担者 藤井 多久磨

Kawahara R, Fujii T, Kukimoto I, Nomura H, Kawasaki R, Nishio E, Ichikawa R, Tsukamoto T, Iwata A : Changes to the cervicovaginal microbiota and cervical cytokine profile following surgery for cervical intraepithelial neoplasia. *Sci Rep*, 11(1): 2156, 2021.

Komatsu H, Banno K, Yanaihara N, Kimura T, Board Members of Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Aoki D, Kato K, Ikeda T, Osuga Y, Okamoto A, Mandai M, Yaegashi N, Mikami M, Kudo Y, Sekizawa A, Enomoto T, Kamei Y, Kobayashi Y, Koyama M, Sameshima H, Shibahara H, Shozu M, Sugino N, Takeshita T,

Nagase S, Fujii T, Maeda N, Miyamoto S, Watari H : Prevention and practice during the COVID-19 emergency declaration period in Japanese obstetrical-gynecological facilities. *J Obstet Gynaecol Res*, 46(11):2237-2241, 2020.

Fujii T, Kawahara R, Kukimoto I, Ichikawa R, Miki M, Kanao S, Nomura H, Torii Y, Iwata A : Cervical intraepithelial lesions and neoplasia association between community state of vaginal microbiota and cervical cytokine profile in patients with CIN. *J Low Genit Tract Dis*, 24(1S):S9, 2020.

Ichikawa R, Kawasaki R, Iwata A, Otani S, Nishio E, Nomura H, Fujii T: MicroRNA-126-3p suppresses HeLa cell proliferation, migration and invasion, and increases apoptosis via the PI3K/PDK1/AKT pathway. *Oncol Rep*, 43(4):1300-1308, 2020.

藤井多久磨, 川原莉奈 : HPVワクチン接種プログラムは子宮頸がん検診をどのように変えるのか? 産婦人科の実際, 69(3):275-283, 2020.

藤井多久磨 : コルポスコープで観察できる子宮頸部・腔内病変. *日本産科婦人科学会雑誌*, 71(8):1580-1585, 2019.

齊藤英子, 藤井多久磨 : 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 子宮頸がん検診における精度管理 (マネジメント) 体制の構築 - 新たな検診手法導入を念頭において - . *日本産科婦人科学会雑誌*, 71 (3) : 469-477, 2019.

・ 研究分担者 宮城 悦子

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol* ,32(3):e29, 2021.

Yagi Y, Ueda Y, Matsuda T, Ikeda S, Miyatake T, Nakagawa S, Hirai K, Nakayama T, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T : Japanese mothers' intention to HPV vaccinate their daughters: How has it changed over time because of the prolonged suspension of the governmental recommendation? *Vaccine*, 8(3):502, 2020.

Suzuki Y, Sukegawa A, Nishikawa A, Kubota K, Motoki Y, Asai-Sato M, Ueda Y, Sekine M,

Enomoto T, Hirahara F, Yamanaka T, Miyagi E : Current knowledge of and attitudes toward human papillomavirus-related disease prevention among Japanese: A large-scale questionnaire study. *J Obstet Gynaecol Res*, 45(5):994-1005, 2019.

Kawaguchi R, Miyagi E, et al. : Guidelines for office gynecology in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2017 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 45(4): 766-786, 2019.

宮城悦子, 雑賀公美子 : 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント) の現状と課題. *日本産科婦人科学会雑誌*, 71(3): 459-468, 2019.

宮城悦子: 婦人科がんの最近の話題 子宮頸がん HPV. *医学と薬学*, 76(2): 143-152, 2019.

・ 研究分担者 中山 富雄

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol* ,32(3):e29, 2021.

Yagi Y, Ueda Y, Matsuda T, Ikeda S, Miyatake T, Nakagawa S, Hirai K, Nakayama T, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T : Japanese mothers' intention to HPV vaccinate their daughters: How has it changed over time because of the prolonged suspension of the governmental recommendation? *Vaccine*, 8(3): 502, 2020.

Aoe J, Ito Y, Fukui K, Nakayama M, Morishima T, Miyashiro I, Sobue T, Nakayama T: Long-term trends in sex difference in bladder cancer survival 1975-2009: A population-based study in Osaka, Japan. *Cancer Med*, 9(19): 7330-7340, 2020.

Nakagiri T, Nakayama T, Tokunaga T, Takenaka A, Kunoh H, Ishida H, Tomita Y, Nakatsuka SI, Nakamura H, Okami J, Higashiyama M : Novel Imprint Cytological Classification for Small Pulmonary Adenocarcinoma Using Surgical Specimens: Comparison with the 8th Lung Cancer Staging

System and Histopathological Classification. J Cancer, 11(10):2845-2851, 2020.

Nakagiri T, Nakayama T, Tokunaga T, Takenaka A, Kunoh H, Ishida H, Tomita Y, Nakatsuka S, Nakamura H, Okami J, Higashiyama M : Intraoperative Diagnosis and Surgical Procedure with Imprint Cytology for Small Pulmonary Adenocarcinoma. J Cancer, 11(10): 2724-2729, 2020.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博 : 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

中山富雄 : 検診の意義とそのエビデンスーがん検診ー. 臨牀と研究, 96(8):8-12, 2019.

Taniguchi M, Ueda Y, Yagi A, Ikeda S, Endo M, Tomimatsu T, Nakayama T, Sekine M, Enomoto T, Kimura T : Cervical cancer screening rate differs by HPV vaccination status: An interim analysis. Vaccine, 37(32):4424-4426, 2019.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄 : 日本の対策型検診における直近 5 年度分の偶発症頻度について. 厚生 の 指 標, 66(7):13-19, 2019.

Fukui K, Ito Y, Nakayama T : Trends and projections of cancer mortality in Osaka, Japan from 1977 to 2032. Jpn J Clin Oncol, 49(4):383-388, 2019.

・研究分担者 齊藤 英子

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. J Gynecol Oncol ,32(3): e29, 2021.

Aoki ES, Yin R, Li K, Bhatla N, Singhal S, Ocviyanti D, Saika K, Suh M, Kim M, Termrungruanglert W: National screening programs for cervical cancer in Asian countries. J Gynecol Oncol, 31(3): e55, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子, 青木大輔 : 子宮頸がん検診 対策型検診へのHPV検査の導入の考

え方 -世界と日本の現状-. 産婦人科の実際, 69(3) : 219-224, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子 : 対策型検診における先進国型の子宮頸がん検診プログラム わが国の現状と課題. 公衆衛生, 84(3):174-181, 2020.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博 : 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

齊藤英子, 藤井多久磨 : 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 子宮頸がん検診における精度管理 (マネジメント) 体制の構築 - 新たな検診手法導入を念頭において-. 日本産科婦人科学会雑誌, 71 (3) : 469-477, 2019.

・研究分担者 森定 徹

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. J Gynecol Oncol ,32(3): e29, 2021.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子, 青木大輔 : 子宮頸がん検診 対策型検診へのHPV検査の導入の考え方 -世界と日本の現状-. 産婦人科の実際, 69(3) : 219-224, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子 : 対策型検診における先進国型の子宮頸がん検診プログラム わが国の現状と課題. 公衆衛生, 84(3):174-181, 2020.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博 : 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

青木大輔, 森定 徹 : 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 がん検診における精度管理の考え方ーアセスメントとマネジメントの関係性を踏まえて-. 日本産科婦人科学会雑誌, 71 (3) : 449-458, 2019.

・研究分担者 高橋 宏和

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol*, 32(3): e29, 2021.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. *日本がん検診・診断学会誌*, 27(2):151-158, 2020.

Fujiwara M, Inagaki M, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N: A randomised controlled trial of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia in psychiatric outpatient clinics: study protocol for the J-SUPPORT 1901 (ACCESS) study. *BMJ Open*, 9(11): e032955, 2019.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 日本の対策型検診における直近 5 年度分の偶発症頻度について. *厚生*の指標, 66(7):13-19, 2019.

・研究分担者 戸澤 晃子

Tozawa-Ono A, Kamada M, Teramoto K, Harayama H, Kodama S, Kasai T, Iwanari O, Kozumi T, Ozawa N, Suzuki M, Kinoshita K: Effectiveness of human papillomavirus vaccination in young Japanese women: a retrospective multi-municipality study. *Hum Vaccin Immunother*, 17(4):950-954, 2021.

Deura I, Kanamori R, Nagasawa Y, Kuji S, Ohara T, Tozawa A, Shimada M, Suzuki N: A simple technique of vaginal cuff closure to prevent tumor cell spillage in laparoscopic radical hysterectomy for uterine cervical cancer. *Asian J Endosc Surg*, 03 Jan, 2021. Online a head of print.

Kobayashi E, Kanao H, Takekuma M, Nishio S, Kojima-Chiba A, Tozawa A, Yamaguchi S, Takeshima N, Nakatani E, Mikami M: A retrospective assessment of the safety and efficacy

of laparoscopic radical hysterectomy in Japan during the early years following its introduction: a Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG1081S). *Int J Clin Oncol*, 26(2): 417-428, 2021.

Tanaka K, Aoki D, Tozawa-Ono A, Suzuki N, Takamatsu K, Nakamura M, Tsunoda H, Seino S, Kobayashi N, Shirayama T, Takahashi F: Comparison of ThinPrep Integrated Imager-Assisted Screening versus Manual Screening of ThinPrep Liquid-Based Cytology Specimens. *Acta Cytol*, 64(5):486-491, 2020.

・研究分担者 雑賀 公美子

Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol*, 32(3): e29, 2021.

Aoki ES, Yin R, Li K, Bhatla N, Singhal S, Ocviyanti D, Saika K, Suh M, Kim M, Termrungruanglert W: National screening programs for cervical cancer in Asian countries. *J Gynecol Oncol*, 31(3): e55, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子, 青木大輔: 子宮頸がん検診 対策型検診へのHPV検査の導入の考え方 -世界と日本の現状-. *産婦人科の実際*, 69(3): 219-224, 2020.

齊藤英子, 森定 徹, 雑賀公美子: 対策型検診における先進国型の子宮頸がん検診プログラム わが国の現状と課題. *公衆衛生*, 84(3):174-181, 2020.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. *日本がん検診・診断学会誌*, 27(2):151-158, 2020.

Saika K, Matsuda T: International comparison of uterine cancer incidence by detailed sites. *Jpn J Clin Oncol*, 49 (9), 890-891, 2019.

宮城悦子, 雑賀公美子: 【特集】今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント)の現状と課題. *日本産科婦人科学会雑誌*, 71(3):

459-468, 2019.

齊藤英子,河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄,森定徹, 斎藤博, 青木大輔: 子宮頸がん検診へのHPV検査導入までの経緯とその運用 - オランダ・オーストラリアの事例 - 日本がん検診・診断学会誌, 26(2):139-146,2019.

2. 学会発表

・研究代表者 青木 大輔

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第 29 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

藤井多久磨, 中山富雄, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査・細胞診併用法—有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版の解説. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム わが国における HPV 検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム 現在の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と全国で効果的な検診を行うためのプロセス. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

藤井多久磨, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム HPV 検査・細胞診併用法. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

青木大輔: 招待講演 わが国の子宮頸がん検診事業における精度管理の課題. 第 82 回三重県生涯教育特別研修セミナー, 2020/11.

青木大輔: 招待講演 わが国の子宮頸がん検診事業における精度管理の課題. 東京医学会 第 2790 回集会, 2020/10.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 高橋宏和, 青木大輔: シンポジウム HPV 検査導入を見据えた本邦の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

齊藤英子, 森定 徹, 中山富雄, 高橋和宏, 雑賀公美子, 青木大輔: HPV 検査の単独検診: HPV primary cytology triage screening. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 検診手法としての HPV 検査と子宮頸がん検診における運用上の課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

森定 徹, 齊藤英子, 青木大輔: ワークショップ HPV検査を用いた子宮頸がん検診の運用上の課題とアルゴリズムの検討. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会, 2020/04.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2019/11.

仲村 勝, 植田政嗣, 岩田 卓, 木口一成, 三上芳喜, 青木大輔: 子宮頸癌検査として剥離細胞分析装置 LC-1000 の臨床的有用性を検証する臨床試験. 第 58 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2019/11.

青木大輔: シンポジウム AYA 世代における子宮頸癌の診断と治療. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019/10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan.

The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/10.

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/10.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよびCINを含む子宮頸部異常の発見率. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較—直近2年間の精検受診について—. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

青木大輔: 招待講演 子宮頸がん検診の精度管理の考え方. 婦人科腫瘍学術講演会, 2019/06.

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わ

が国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2019/06.

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D : Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

Morisada T, Teramoto K, Takano H, Hashi A, Sasaki H, Aoki D : CITRUS study, a randomised trial assessing effectiveness and management issues of cervical cancer screening program using co-testing with cytology and HPV testing. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

・研究分担者 八重樫伸生

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

遠藤俊, 渡邊善, 徳永英樹, 島田宗昭, 八重樫伸生: 腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術での工夫～下腹部小切開を通じた子宮頸部の切断～. 第43回日本産婦人科手術学会, 2020/11.

徳永英樹, 岡本聡, 島田宗昭, 石橋ますみ, 志賀尚美, 高野忠夫, 伊藤潔, 八重樫伸生: 子宮頸部腺系病変の早期発見に向けた取り組みと将来展望. 第61

回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06.

辻圭太，島田 宗昭，徳永 英樹，山口 聡，竹島 信宏，中西 透，齋藤 俊章，八重樫 伸生，三上 幹男，杉山 徹：子宮頸癌IIC期(FIGO2018)における臨床病理学的検証. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会，2020/04.

土岐麻実，新倉仁，徳永英樹，島田宗昭，八重樫伸生：マイクロバブルを用いた術中造影超音波による子宮体癌および子宮頸癌におけるセンチネルリンパ節転移診断. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会，2020/04.

Miyahara S, Minato T, Oyama Y, Sasaki S, Kudo K, Toki A, Shigeta S, Tsuji K, Tokunaga H, Shimada M, Yaegashi N : Comparison of the outcome between squamous cell carcinoma and non-squamous cell carcinoma patients who underwent definitive radiotherapy for uterine cervical cancer : a single-center retrospective analysis. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会，2020/04.

Shigeta S, Shimada M, Tsuji K, Tokunaga H, Yamaguchi S, Takeshima N, Nakanishi T, Yaegashi N, Mikami M, Sugiyama T : A clinicopathological analysis of 2378 patients with FIGO 2018 stage IB1/IB2 cervical cancer by Japanese Gynecologic Oncology Group Network (JGOG 1072s). The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) , 2019/10.

萩原達也，島田宗昭，辻圭太，徳永英樹，児玉省二，齋藤豪，藤堂幸治，榎本隆之，八重樫伸生：子宮頸癌進行期分類 FIGO2018 の検証 IB3 期 (FIGO2018)の臨床病理学的検証. 第 67 回北日本産科婦人科学会，2019/09.

辻圭太，島田宗昭，重田昌吾，徳永英樹，山口聡，竹島信宏，中西透，齋藤俊章，八重樫伸生，三上幹男，杉山徹：子宮頸癌進行期分類 FIGO2018 の検証 IB1/IB2 期(FIGO2018)の臨床病理学的検証. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2019/07.

土岐麻実，徳永英樹，岡本聡，石橋ますみ，重田昌吾，辻圭太，島田宗昭，八重樫伸生：子宮頸部異型腺細胞の細胞診判定における p16^{INK4a}/Ki67 二重免疫染色の有用性. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2019/07.

Tokunaga H, Okamoto S, Ishibashi M, Shimada M, Yaegashi N : Efficiency of a dual

p16^{INK4a}/Ki-67 immunocytochemistry to evaluate atypical glandular cells of the uterine cervix. The 20th International Congress of Cytology , 2019/05.

辻圭太，島田宗昭，徳永英樹，山口聡，竹島信宏，中西透，齋藤俊章，八重樫伸生，三上幹男，杉山徹：子宮頸癌腺癌IB1期症例における臨床病理学検証. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会，2019/04.

・研究分担者 藤井多久磨

森定 徹，雑賀公美子，齋藤英子，河野可奈子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，2021/02.

藤井多久磨：講演 子宮頸がん検診におけるHPV検査の意義と将来展望. 第17回細胞検査研修会（主催 愛知県臨床細胞学会），2021/01.

藤井多久磨，中山富雄，青木大輔：招待講演 HPV検査・細胞診併用法—有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版の解説. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2021/01.

森定徹，齋藤英子，雑賀公美子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2021/01.

藤井多久磨，中山富雄，青木大輔：シンポジウム HPV 検査・細胞診併用法. 第 59 回日本臨床細胞学会総会（秋期大会），2020/11.

藤井多久磨：教育講演 子宮頸部細胞診の異常を指摘された妊婦がどのように管理されるべきか. 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06.

中島葉月，市川亮子，等々力彩，三谷武司，川原莉奈，大脇晶子，金尾世里加，鳥居 裕，三木通保，宮村浩徳，西尾永司，西澤春紀，野村弘行，藤井多久磨：子宮頸癌新臨床進行期分類 (FIGO2018) を用いた再分類に基づく予後の検討. 第58回日本癌治療学会学術集会，2020/10.

三木通保，大谷清香，市川亮子，野村弘行，浦野誠，塚本徹哉，須藤健助，藤井多久磨：高齢者においてHSIL と判定された患者の組織診断の特徴. 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06.

Fujii T: Lecture – Current status and future task for cervical cancer screening in Japan. JHU-ASC-JSCC Joint Cytopathology Course 2019, 2019/12.

藤井多久磨: 教育講演 コルポスコープ検査.第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2019/06.

Fujii T Current Status of Cervical Cancer Prevention UK, New Zealand, USA and Japan: Crossroads for Primary and Secondary Cervical Cancer Prevention in Japan. 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

藤井多久磨: 教育講演 コルポスコープで観察できる子宮頸部・腔内病変. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 2019/04.

・研究分担者 宮城 悦子

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

宮城悦子, 雑賀公美子, 齊藤英子: シンポジウム 子宮頸がん検診としての HPV 検査マネージメントの課題, 第59回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2020/11.

宮城悦子: 子宮頸がん予防～過去から未来へ～. 令和2年度静岡県産婦人科医会・静岡産科婦人科学会・子宮がん集団検診医師研修会, 2020/11.

宮城悦子: シンポジウム 日本の子宮頸がん予防～産婦人科医師の立場から9価HPVワクチンの話題も含めて～. 第52回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2020/11.

Miyagi E, Kawana K, Ueda Y, Yagi A, Enomoto T, Sekine M, Kudo R, Yamaguchi M, Ino K, Ikeda S, Morisada T, Suzuki Y, Sukegawa A, Mizushima T, Kimura T: After the suspension of the proactive HPV vaccine recommendation

by the Japanese government; what happened and what is happening in Japan? 3rd International Papillomavirus Conference, 2020/07.

宮城悦子: 要望講演 本邦と世界のHPVワクチンの現状. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

助川明子, 鈴木幸雄, 宮城悦子: 医学部新入生女子のHPVワクチンや子宮頸がん検診に対する認識と態度の経年的評価. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会, 2020/04.

佐治晴哉, 有野祐子, 片山佳代, 鈴木幸雄, 今井雄一, 水島大一, 丸山康世, 長谷川哲哉, 松永竜也, 中山富雄, 宮城悦子: シンポジウム 本邦におけるHPV検査を用いた実効性のある子宮頸がん検診のアルゴリズムを考える. 第58回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2019/11.

宮城悦子: シンポジウム 子宮頸がん予防ワクチンを考える/いかに日本の子宮頸がん予防の危機的状況を克服していくべきか? 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019/10.

山口真奈子, 関根正幸, 工藤梨沙, 安達聡介, 上田豊, 宮城悦子, 原めぐみ, HanleySJB, 榎本隆之: 日本人女性における性的活動性とHPV感染、子宮頸部組織診異常との関係. 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019/10.

丸山康世, 助川明子, 岩泉ゆき葉, 中川沙綾子, 木野民奈, 山本賢史, 紙谷菜津子, 鈴木幸雄, 平吹知雄, 宮城悦子: 妊娠初期の子宮頸部細胞診における採取器具についての検討. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

助川明子, 鈴木幸雄, 榎本隆之, 関根正幸, 上田豊, 宮城悦子: 大学生は子宮頸がん予防をどのように捉えているか?—医学部新入生を対象とした意識と知識に関する調査—. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

丸山康世, 助川明子, 岩泉ゆき葉, 中川沙綾子, 木野民奈, 山本賢史, 中島文香, 堀田裕一朗, 平田豪, 成毛友希, 平吹知雄, 宮城悦子: 当院で分娩した妊婦の妊娠初期の子宮頸部細胞診の現状. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

宮城悦子: シンポジウム HPV ワクチンを再考する・子宮頸がん予防の未来を考える. 第137回関東連合産科婦人科学会総括・学術集会, 2019/06.

佐治晴哉, 有野祐子, 片山佳代, 鈴木幸雄, 今井雄一, 丸山康世, 長谷川哲哉, 松永竜也, 宮城悦子: シンポジウム ASC-USの判定を再考してみる・HPVトリアージを通したASC-USの評価を再考する. 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2019/06.

八木麻未, 上田豊, 榎本隆之, 宮城悦子, 中山富雄, 池田さやか: 本邦における生まれ年度ごとのCIN3罹患リスク評価とHPVワクチンの有効性. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 2019/04.

・研究分担者 中山 富雄

中山富雄: シンポジウム 有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版について. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

藤井多久磨, 中山富雄, 青木大輔: 招待講演 HPV検査・細胞診併用法—有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年度版の解説. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム わが国におけるHPV検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討. 第59回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2020/11.

藤井多久磨, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム HPV検査・細胞診併用法. 第59回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2020/11.

Takahashi H, Machii R, Nakayama T: Analysis of population-based and worksite cancer screening in Japan. 16th World Congress on Public Health, 2020/10.

齊藤英子, 森定 徹, 中山富雄, 高橋和宏, 雑賀公美子, 青木大輔: HPV検査の単独検診: HPV primary cytology triage screening. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 検診手法としての HPV検査と子宮頸がん検診における運用上の課題. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

中山富雄: ワークショップ HPVを用いた子宮頸がん検診のエビデンス. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会, 2020/04.

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T: The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference, 2019/11.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第58回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2019/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV検査の有用性評価研究. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 斎藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/10.

中山富雄: がん検診にかかわる疫学研究の現状. 第78回日本癌学会学術総会 癌学会・がん疫学分子疫学研究会合同シンポジウム, 2019/09.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV検査キットの選択の状況. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 —直近 2 年間の精検受診について—. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

高橋宏和, 中山富雄: シンポジウム がん検診における普及と実装. 第42回日本がん疫学・分子疫学研究学会総会, 2019/07.

中山富雄: ワークショップ どうなる、日本の子宮頸がん検診～HPV 検査導入の課題～ 子宮頸がん検診のエビデンスの整理. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/ 06.

・研究分担者 齊藤 英子

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/ 02.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム わが国における HPV 検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

宮城悦子, 雑賀公美子, 齊藤英子: シンポジウム 子宮頸がん検診としての HPV 検査マネージメントの課題, 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム 現在の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と全国で効果的な検診を行うためのプロセス. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2020/11.

齊藤英子, 森定 徹, 中山富雄, 高橋和宏, 雑賀公美子, 青木大輔: HPV 検査の単独検診: HPV primary cytology triage screening. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 高橋宏和, 青木大輔: シンポジウム HPV 検査導入を見据えた本邦の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 検診手法としての HPV 検査と子宮頸がん検診における運用上の課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

森定 徹, 齊藤英子, 青木大輔: ワークショップ HPV検査を用いた子宮頸がん検診の運用上の課題とアルゴリズムの検討. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会, 2020/04.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: 子宮頸部細胞診の現状と可能性: シンポジウム 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2019/ 11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 齋藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 齋藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 齋藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 , 2019/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 齋藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 —直近 2 年間の精検受診について—. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 , 2019/ 09.

齊藤英子: ワークショップ どうなる、日本の子宮頸がん検診～HPV 検査導入の課題～ 子宮頸がん検診における新たな検診方法導入プロセスの考え方と有効性評価の位置づけ. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 齋藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会) , 2019/ 06.

Saitoh E , Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan . The 20th International Congress of Cytology ,2019/05.

Kono K, Morisada T , Saika K , Saitoh E , Saito H, Aoki D : Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 , 2021/ 02.

森定徹, 齊藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 , 2021/01.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム わが国における HPV検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討. 第59回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会) , 2020/11.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム 現在の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と全国で効果的な検診を行うためのプロセス. 第 59 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会) , 2020/11.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 検診手法としての HPV 検査と子宮頸がん検診における運用上の課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会) , 2020/06.

雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 高橋宏和, 青木大輔: シンポジウム HPV 検査導入を見据えた本邦の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と課題. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

齊藤英子, 森定 徹, 中山富雄, 高橋和宏, 雑賀公美子, 青木大輔: HPV 検査の単独検診: HPV primary cytology triage screening. 第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2020/06.

森定 徹, 齊藤英子, 青木大輔: ワークショップ HPV検査を用いた子宮頸がん検診の運用上の課題とアルゴリズムの検討. 第72回日本産科婦人科学会学術講演会, 2020/04.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 2019/ 11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研

究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較—直近 2 年間の精検受診について—. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/ 07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/ 06.

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

Morisada T, Teramoto K, Takano H, Hashi A, Sasaki H, Aoki D: CITRUS study, a randomised trial assessing effectiveness and management issues of cervical cancer screening program using co-testing with

cytology and HPV testing. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

・研究分担者 高橋 宏和

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/02.

森定徹, 齋藤英子, 雑賀公美子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 八重樫伸生, 青木大輔: 招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021/01.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム わが国における HPV 検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討. 第59回日本臨床細胞学会総会(秋期大会), 2020/11.

Takahashi H, Machii R, Nakayama T : Analysis of population-based and worksite cancer screening in Japan. 16th World Congress on Public Health, 2020/10.

Current status for breast density notification in Japan. Takahashi H, Matsumoto A, Tsunoda H, Uematsu T, Suzuki A, Kasahara Y : 12th European Breast Cancer Conference, 2020/10.

雑賀公美子, 齋藤英子, 森定 徹, 齋藤 博, 高橋宏和, 青木大輔: シンポジウム HPV検査導入を見据えた本邦の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と課題. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

齋藤英子, 森定 徹, 中山富雄, 高橋和宏, 雑賀公美子, 青木大輔: HPV 検査の単独検診: HPV primary cytology triage screening. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 高橋宏和, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 検診手法としての HPV 検査と子宮頸がん検診における運用上の課題. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2020/06.

Takahashi H, Matsumoto A, Nakayama T : Cancer screening may cause overdiagnosis in Japan. Preventing Overdiagnosis, 2019, 2019/12.

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T : The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference, 2019/11.

高橋宏和: ワークショップ 乳癌検診における国外の状況について. 第29回乳癌検診学会学術総会, 2019/11.

松本綾希子, 高橋宏和, 中山富雄: ワークショップ 過剰診断について. 第29回乳癌検診学会学術総会, 2019/11.

Takahashi H, Matsumoto A, Matsuda K, Machii R, Saika K, Nakayama T : Overdiagnosis by conducting cancer screening other than guidelines in Japan. The 15th Guidelines International Network, 2019/10.

鉢嶺元誉, 町井涼子, 高橋宏和, 宮里治, 金城福則, 齋藤博: 大腸がん検診精検受診率向上を目的とした、県主導による精度管理体制の構築について. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 齋藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

松本綾希子, 高橋宏和, 中山富雄: 乳癌検診において単回の要精検率が累積偽陽性率に及ぼす影響. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

大槻曜生, 齋藤順子, 早川雅代, 片野田耕太, 松田智大, 高橋宏和, 高橋都, 吉見逸郎, 島津太一: 日本人におけるがんに関する健康情報へのアクセス、IT利用、健康行動についての調査. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Takahashi H : Lung cancer screening in Japan. APEC Regional Workshop on Lung Cancer Prevention and Control, 2019/10.

齋藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 齋藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 — 直近 2 年間の精検受診

について。第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，2019/09。

高橋宏和，中山富雄：シンポジウム がん検診における普及と実装。第42回日本がん疫学・分子疫学研究会総会，2019/07。

雑賀公美子，松田一夫，高橋宏和，町井涼子，齋藤博：がん検診のプロセス指標の基準値の設定手法について。第58回日本消化器がん検診学会総会附置研究会，2019/06。

小川俊夫，喜多村祐里，高橋宏和，地智紀，山口真寛，武藤正樹，今村知明，祖父江友孝：レセプトを用いた職域がん検診の精度管理指標の算出手法の検討。第92回日本産業衛生学会総会，2019/05。

・研究分担者 戸澤 晃子

森定 徹，雑賀公美子，齊藤英子，河野可奈子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討。第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，2021/02。

森定徹，齋藤英子，雑賀公美子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理。第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2021/01。

戸澤晃子，三上幹男，津田千春，大原樹，鈴木直，池田 仁恵，小林陽一，永瀬智，横山正俊，榎本隆之，片瀨 秀隆：子宮頸部円錐切除症例の挙児希望症例に関する後方視的検討。第71回日本産科婦人科学会学術講演会，2019/04。

・研究分担者 雑賀公美子

森定 徹，雑賀公美子，齊藤英子，河野可奈子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：シンポジウム 子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討。第29回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，2021/02。

森定徹，齋藤英子，雑賀公美子，戸澤晃子，高橋宏和，中山富雄，宮城悦子，藤井多久磨，八重樫伸生，青木大輔：招待講演 HPV 検査を含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムとその精度管理。第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，2021/01。

雑賀公美子，齊藤英子，森定 徹，青木大輔：シンポジウム 現在の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と全国で効果的な検診を行うためのプロセス。第59回日本臨床細胞学会総会（秋期大会），2020/11。

森定 徹，雑賀公美子，齊藤英子，高橋宏和，中山富雄，青木大輔：シンポジウム わが国におけるHPV検査も含めた子宮頸がん検診の運用のアルゴリズムに関する検討。第59回日本臨床細胞学会総会（秋期大会），2020/11。

宮城悦子，雑賀公美子，齊藤英子：シンポジウム 子宮頸がん検診としての HPV 検査マネージメントの課題。第59回日本臨床細胞学会総会（秋期大会），2020/11。

雑賀公美子，齊藤英子，森定 徹，齋藤 博，高橋宏和，青木大輔：シンポジウム HPV検査導入を見据えた本邦の子宮頸がん検診の精度管理状況の実態と課題。第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06。

齊藤英子，森定 徹，中山富雄，高橋和宏，雑賀公美子，青木大輔：HPV 検査の単独検診：HPV primary cytology triage screening。第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06。

森定 徹，雑賀公美子，齊藤英子，高橋宏和，中山富雄，青木大輔：シンポジウム 検診手法としての HPV 検査と子宮頸がん検診における運用上の課題。第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2020/06。

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T: The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference, 2019/11.

森定 徹，雑賀公美子，齊藤英子，河野可奈子，中山富雄，青木大輔：シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性：日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望。第58回日本臨床細胞学会総会（秋期大会），2019/11。

河野可奈子，雑賀公美子，中山富雄，齊藤英子，森定 徹，齋藤 博，青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究。第78回日本公衆衛生学会総会，2019/10。

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 斎藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019/10.

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019), 2019/ 10.

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 —直近 2 年間の精検受診について—. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2019/ 09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の

課題. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2019/ 07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/ 06.

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology, 2019/05.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
藤井多久磨
特許出願
出願番号: 特願2018-118960
発明の名称: 子宮頸がん検査用検体
出願日: 2018年6月22日
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし